

入選

小さな親切・大きな親切

大分県 青山中学校 1年 牧 莉人

僕は、最近二つの親切に出会いました。一つ目は、大分に向かっていたときの電車の中のできごとです。座れなかったので、つり革につかまって立っていました。電車がとてもゆれていたのので、ふらふらして、うまくバランスがとれずにいたら、前に座っていた男の人がすぐに立ち上がり、席をゆずってくれました。僕は、ものすごく申し訳ない気持ちになったけれど、男の人の気持ちがうれしくて、心がとてもあたたかくなりました。

その次の日も、電車で塾に行っているときに、高校生ぐらいのお兄さんが席をゆずってくれました。僕は、二日連続の親切にとってもハッピーな気持ちになりました。

(よし！！次は僕が席をゆずるぞ)と心に決めました。とはいえ、なかなかそのような状況に出会わず、すっかり忘れかけていたある日、電車におばあさんが乗ってきました。僕は、その日たまたま座れていて、おばあさんのための席は一つも空いていませんでした。僕はチャンスだと思い、すぐに立ち上がりました。とても心臓がドキドキしていました。おばあさんに近づき、

「どうぞ。」

と声をかけました。おばあさんは、僕を見てにっこりして、

「ありがとう。」

と言ってくれました。

席をゆずられたときといっしょで、幸せな気分になりました。すがすがしい気分が家に帰ったら、その日の夕飯は、僕の大好物ばかりでした。そのとき、僕はいつもお母さんの言っている言葉を思い出しました。

「人によいことをしたら、自分にその幸せが返ってくるよ。でも、逆に悪いことをしたら、それが倍になって返ってくるよ。」

僕は、小さな親切が大きな幸せになって返ってきたと思いました。

それから、もう一つ出会った親切は、毎朝通学とちゅうにトングを持ってごみをひろっているおじさんに会うことです。どこから歩いてきているかわからないけど、ずっとごみをひろって歩いています。次の日も、次の日もずっとひろっています。

僕は、これは小さな親切ではなく、大きな親切だと思いました。小さな親切から少しずつ始め、ごみひろいをしているおじさんのように、大きな親切ができるような大人になろうと思います。

席をゆずってくれた男の人、高校生のお兄さん、毎日ごみをひろってくれているおじさん、ありがとう。